［講演要旨］白頭山の歴史時代の火山活動

秋 教昇 ・朴 昌業(ソウル大) ・都司 嘉宣(東大地震研)

西暦 1597 年 10 月 6,7,8 日の火山性地震活動『朝鮮王朝実録』の宣祖 30 年8月 26,27,28 日（1597 年 10 月 6,7,8 日）に次のような内容の記録がある。

＊ 八月甲辰（二十六日）地震、観象監官員来言 即刻地動、自南向西 （宣祖実録 91）

＊ 咸鏡道 自八月二十六日至二十八日 連八度地震墻壁撞尽掀 禽獣皆驚 或有人因此病臥 不起者 （同 92）

＊ 忠清道 唐津沔川大興等地 自本月十三日以後連三日地震 或一日三四度或一日六七度畳震 屋瓦振動 （同 92）

＊ 咸鏡道観察使宋言慎書状 去八月二十六日辰時 三水郡境地震 暫時而止 二十七日未時 又為地震 城子二処頽圮 而郡越辺甑巖 半片崩頽同巖底 三水洞中川水色変為白 二十八日更変為黄 仁遮外堡東距五里許 赤色土水湧出 数日乃止 八月二十六日辰時 小農堡越辺北徳者耳遷絶壁人不接足処再度有放砲之声仰見則烟気漲天 大如数抱之石 隋烟析出 飛過大山後不知去処 二十七日酉時地震同絶壁 更為折落 同日亥時子時地震事. （同 93）

現代語に訳すと次の通り。

＊ 8月 26 日 地震があった。観象監 官員の言葉によれば、すぐ震動があったが、南側から西側へ向かったという。（宣祖第 92 巻）

＊ 咸鏡道に 8 月 26 日から 28 日まで連続的に八回もの地震が起き、壁が揺れ、すべての鳥獣（飛ぶ鳥と地を這う動物）たちもみな驚いて、このために病気になって床に臥して起きあがれなくなった人もいた。

＊ 忠清道の唐津・沔川・大興等の地ではこの月十三日以後連続三日間地震が起きた。地震はある日には3～4度、別の日には一日に6～7度つづけさまに地震が起き、家屋と瓦が震動した。（宣祖第 92 巻）

＊ 咸鏡道の観察使宋言慎が地震の発生を報告した。去る8月 29 日辰時（午前7～9時）に三水（Samsu）郡境で地震があり、しばらく揺れ続けて止んだ。27日未刻（13～15 時）にまた地震があった。城子の2か所がこわれ、郡の境界地帯のお向かい側にある甑巖（Chung-am）という岩がまつ二つに割れてくだけ落ちた。この岩の下に三水洞中川の水の色が白いいろに変化したが、28日にはふたたび黄色に変化し、仁遮外堡(Inchawebo)から東に5里（韓国の1里は約600m）離れたところに赤い色をした泥水湧き出し始め、数日たってようやく止まった。8月26日辰刻（午前7～9 時）に小農堡（Sonung-bo）の向かえの北側の「徳子耳遷」という絶壁の人が立ち寄れないところで二回ほど大砲を撃つような音がした。音のした方向を仰いでみると煙が空じゅうに立ちこめ、数抱えほどの大きさの石が煙に従って現れ出て 大きな山を越えてどこかへ飛んで行った。27日には酉刻（17～19時）に地震が起き、この絶壁がふたたび崩れ落ちた。この日の亥刻（21～23時）と子刻（23～1時）地震があった。（宣祖第 93 巻）

『宣宗大王実録』によれば、白頭山の火山体で火山噴出を伴う地震の発生現象を明確であることをよく表現している。特にこの地震に対して、連続する3日間の、発生日・時間・地名・発生現象と被害程度まで記録されているばかりではなく、咸鏡道・ソウル、および忠清道で3日間同時に感じられた地震による被害まで詳細に記録されている。この火山活動に伴う最大地震の震度分布を図に示しておく。

1597년 火山噴出과 同時에 發生한 地震의 等震度線